平成30年度　嬉野市立嬉野中学校　学校評価（最終評価）

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
夢に向かう颯爽とした生徒の育成 ～「嬉中まなび力」「嬉中しぐさ力」「嬉中きずな力」～ 1　嬉野中学生のまなび ・　授業を大切にし、真剣に、主体的に勉強する生徒 ・　人の教えに学び夢に向かう生徒 2　嬉野中学生のしぐさ ・　基本的なしぐさができる生徒 学校：あいさつ、掃除、部活動 家庭：朝食、自主学習、約束（テレビやゲームの時間等） ・　おもてなしの精神を実行できる生徒 3　嬉野中学生のきずな ・　小学生から中学生へ成長できる生徒（小中連携） ・　地域との絆が深まる生徒（コミュニティ・スクール） ・　人と人との絆を大切にする生徒	1　まなびの資質 ・・・学力向上につながる学習規律の確立と家庭学習の継続 （課題の工夫、自学ノート、読書の推進） ・・・一人一人の特性に配慮し、個の実態に応じた支援の充実 （特別支援教育の充実） 2　しぐさの資質 ・・・家庭・小学校と連携し、基本的生活習慣の確立 （挨拶・掃除・時間厳守） 3　きずなの資質 ・・・人権尊重を意識させた活動、社会や地域貢献を意識させた活動 （出番・役割・承認）

3　目標・評価

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
①　まなびの資質・・・学力向上につながる学習規律の確立と家庭学習の継続　（課題の工夫、自学ノート、読書の推進） ・・・一人一人の特性に配慮し、個の実態に応じた支援の充実　（特別支援教育の充実）							
学校運営	○教職員の資質向上	指導力の向上 研究の推進	・各教科で計画的に研究を進め、授業改善に取り組む。 ・生徒へのアンケート「授業の内容がだいたいわかる」の項目で80%を上回る。	・テーマに沿った研究授業を行い、全職員が授業公開を行う。また、全職員で参観する授業研究会を年3回実施し、指導力の向上を図る。 ・生徒が自分の考えや意見を表現できるような学習形態を工夫する。	A	○全職員が公開授業を行った。また、年3回の全職員による授業研究会を行い、その成果を各自の授業に生かした。 ○「授業の内容がだいたいわかる」と答えた生徒は、87.8%であった。	・全職員による公開授業は今後も続け、授業力の更なる向上につなげる。 ・下位の生徒に対する個別の支援の在り方の工夫（放課後学習等）が必要である。
学校運営	○特別支援教育の充実	教員の専門性と意識の向上	・支援を要する全ての生徒に対して、個別の支援計画を作成し、活用する。 ・全ての教師が教室環境や板書の仕方、生徒の状況に配慮した指導の在り方等を理解できるようにする。	・強いこだわりのある生徒や理解に時間のかかる生徒に対する指導方法について研修を深め、学習環境のユニバーサルデザイン化を進める。 ・特別支援委員会やケース会議を適宜開催し、学校全体での支援体制を構築する。 ・特別支援教育に関する研修会を定期的に実施し、専門性の向上を図る。 ・特別支援スーパーバイザーの指導助言を日々の教育活動に取り入れる。	A	○文部科学省事業の指定を受け、特別支援教育に関する研修を積み、教室環境の改善、板書やワークシートの工夫など様々な配慮ができるようになった。 ○ユニバーサルデザインの視点を意識した手立てをしている職員は、96%である。 ○発達障害を含む障害のある生徒を気がけて支援を行っている職員は92%である。 ○板書の仕方や提示の仕方、説明の仕方など配慮を要する生徒に心がけた指導を行っている職員は100%である。	・来年度は、特別支援スーパーバイザーがいなくなるが、これまでの指導・助言で得られた支援の手立て等を生かした指導を行う必要がある。 ・毎月、確実に研修会を計画する。
教育活動	●学力の向上	指導方法の改善	・TTの授業に効果を感じる生徒の割合を90%以上にする。 ・生徒へのアンケート「勉強がわかりやすくなった」、「勉強が楽しくなった」の項目で前年度の3%増加を目指す。	・「主体的・対話的で深い学び」のある実践を行うため単元計画を見直し、生徒の意欲を引き出し、伝え合う力の向上を目指す。 ・TTを積極的に活用し、生徒一人一人の能力に応じてきめ細かな指導を行う。特にT2の役割を明確にし、効果的な指導の在り方を追求する。	A	○県学習状況調査の結果では、すべての教科で県平均を上回っている。特に1年生の数学では、全時間TTによる指導を行った結果大きな伸びを見せている。 △TTによる授業は分かりやすいと感じる生徒の割合は78.3%である。 ○「授業がだいたいわかる」と答えた生徒の割合は昨年度と比較して4.8%増加した。	・保護者にTTによる授業を実施していることやその成果についての情報発信が課題である。
教育活動		家庭学習の習慣化 （個に応じた支援等）	・生徒、職員のアンケート「毎日家庭学習をしている」の項目で90%を上回る。 ・自学ノートの質の向上を図る。	・自主学習について、具体的方策を提示する。 ・家庭での時間の使い方など、生活リズムについて振り返らせる。 ・学年で統一した課題を用意する。 ・個に応じた課題の質や量を工夫する。	B	△「毎日家庭学習をしている」生徒の割合は、89.5%である。 △工夫して自主学習を行っている生徒は66.0%である。また、自主学習について具体的に指導を行っている職員は58.4%である。	・家庭学習を習慣化するためには保護者の協力なしにはできないため、家庭への呼びかけ方の工夫をする。 ・自主学習の質の向上が課題である。
教育活動	●心の教育	おもてなしの精神できちんとした挨拶と毎日の丁寧な掃除	・生徒、職員のアンケート「挨拶ができている」の項目の好意的な評価が90%を上回る。 ・生徒へのアンケート「掃除を時間いっぱい意欲的に行っている」の項目と、職員へのアンケート「掃除区域で生徒と共に掃除を時間いっぱい行っている」の項目でそれぞれ好意的評価が90%を上回る。	・職員が自ら、積極的に挨拶や掃除を行い、手本を示す。 ・掃除では、年度初めに掃除の仕方を一か所ずつ確認し、その後も継続的に指導を行う。 ・生徒会活動でも挨拶や掃除に関する新聞発行や呼びかけをする。	A	○「いつも気持ちよく挨拶ができている」生徒は86.5%、職員は100%であった。 ○「掃除を時間いっぱい意欲的に行っている」生徒は、90.2%で、「掃除区域で生徒と共に掃除を時間いっぱい行っている」職員は100%であった。来校者からも好意的な評価をいただいている。 ○生徒会を中心に挨拶運動に取り組んでいる。新生徒会では校内に「あいさつ通り」を設けるなど、更に活発な取組を行っている。	・地域や家庭でも、もっと挨拶ができるようにしていきたい。 ・学校でできている掃除への取組を家庭や地域でも発揮できるよう本物の力にしていきたい。
教育活動		人権教育と情報モラル教育の充実	・道徳の時間の指導法の工夫に努める。 ・「生きる力の教科書」を活用した情報モラル教育の授業を年間1回以上実施し、生徒の意識の向上を図る。	・授業で学んだことを大切にするため、学年の道徳コーナーを作る。活動の様子は学級通信で保護者にも伝える。QUテストの考察を行い、人権の視点に立った授業や体験活動を行う。 ・各学年、「生きる力」の教科書を使用し、年間1回以上情報モラルに関する単元の授業を実施する。	A	○各学年とも計画的に道徳の授業を実施することができた。 ○「生きる力の教科書」を活用した情報モラル教育の授業も計画的に実施した。 ○96.8%の生徒がSNS等の危険性について認識している。 ○人権について考える機会を朝読書や昼休みの放送、授業実施、全校向けの講話など様々な形で作り出した。	・今後ますます携帯電話やスマートフォンに関する対応が求められると考えられる。
教育活動	●健康・体つくり	運動・栄養・休養のバランスのとれた生活習慣の確立	・運動に積極的に取り組む生徒の割合を90%以上にする。 ・朝食を摂って登校する生徒の割合を90%以上にする。 ・睡眠時間を7時間以上取る生徒の割合を90%以上にする。	・体育の授業や運動部活動に適切に、意欲的に取り組む。 ・家庭と連携し、「早寝、早起き、朝ごはん」に積極的に取り組む。 ・ノーテレビ・ノーゲームデーとの取組と連携し、家庭での時間の使い方の改善を図る。	B	○運動に積極的に取り組む生徒は、91.8%であった。 △朝食を毎日食べている生徒は、85.4%で昨年度の92.5%を下回った。 △ノーテレビ・ノーゲームデーの取組では、平均で7割程度の実施率であった。 △睡眠時間を7時間以上取る生徒は、75.1%であった。	・朝食の喫食率を100%に近づけるよう家庭との更なる連携が必要である。 ・家庭での時間の使い方についても更なる連携や啓発が必要である。
③　きずなの資質・・・人権尊重を意識させた活動、社会や地域貢献を意識させた活動　（出番・役割・承認）							
学校運営	○地域・保護者・小学校等との連携	学校運営協議会の充実 情報発信 小中連携研修会	・学校に期待されている事柄をしっかりと踏まえ、地域の誇れる教育活動を展開する。 ・授業参観や学校・PTA行事等、保護者の参加率を前年度より上げる。 ・嬉野中学校区として「9年間で育てる」ことを意識し、小学校との連携を深める。	・学校運営協議会の協力を得て、地域や保護者を巻き込み行事の効果的な在り方を探る。また、「総合的な学習の時間」を活用して、生徒が地域の目を向ける場面を設定する。 ・「学校便り」や「HP」などの充実を図り、分かりやすく生徒の活動や学習の状況、行事等の情報発信を行う。 ・些細なことでも、小中の職員が互いに情報交換がしやすい環境を整え、研修においてはより一層深まりのあるものにする。	A	○うれしカーデンの認識度は、生徒91.4%、保護者94.9%である。嬉野中学校がコミュニティ・スクールであることを認識している保護者は80%である。 ○1年生は、絵付け体験やうれしカーニバルへの参加、2年生は、各事業所での職場体験、3年生は学習の成果を「う嬉野よかとこ提案書」としてまとめることができた。 ○学校行事にはたくさんの方に参観いただくことができた。文化発表会には370名の来校者があった ○学校便りの返信には、毎回たくさんの好意的な意見が寄せられている。	・学校だけでは解決できないこと、地域や家庭にお願いすることの棲み分けに工夫が必要である。
教育活動	●いじめの問題への対応	いじめの未然防止・早期発見・早期対応・早期解消	・「いじめを受けていない、いじめをしていない、いじめを見逃していない」という回答が、95%以上になるよう努める。 ・SNSの危険性を理解している生徒の割合を90%以上にする。	・年3回以上いじめアンケートとSNS調査を行い、いじめ撲滅とSNSの危険性への意識を高めさせる。 ・教員に対してもSNSや情報リテラシーについての意識を高める研修を行い、指導力の向上を図る。	A	○アンケートや日頃からの観察、相談などにより、細かな変化を見逃さない取組を続けている。 △「いじめを受けていない、していない、見逃していない」という回答は、93.8%であった。 ○SNSの危険性を理解している生徒の割合は、96.1%であった。 ○SNSの危険性に対する指導は、「生きる力の教科書」や教育講演会等でも取り上げて指導している。	・「いじめを受けていない、していない、見逃していない」という項目で6.2%の生徒がそう思わないと感じていることは見逃せない数字である。 いじめに対する認識を高める取組が必要である。
④　本年度の重点目標に含まれない共通評価項目							
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化の促進	・時間外勤務を昨年度よりも10%削減する。 ・行事の精選や校務分掌の整理、役割分担の明確化に取り組む。 ・効率的な業務遂行のためにICTの有効活用をしやすい環境を整える。	・各教職員の勤務時間を確実に把握する。 ・行事ごとにその必要性を吟味する。また、総合的な学習の時間の指導内容を整理し、焦点化する。 ・校務サーバーを整理し、校務分掌とフォルダを一体化させ、データの共有など効率化を図る。 ・休日の部活動時間の削減を積極的に進める。	A	○時間外勤務の時間は、昨年度の平均74.9時間に対し、本年度（1月末現在）61.0時間と昨年度より18.6%削減した。また、月80時間以上の人数が昨年度117名に対し今年度は、52名と半数以下になっている。 ○部活動については、第3水曜、第3日曜の休養日を確実に実施している。また、休日の部活動の活動時間も昨年度より1割程度削減した。 ○行事一覧とフォルダをリンクさせるなどして業務の効率化を図る方向へ改善を進めている。	・校時表の見直しや業務の効率化、外部人材の活用など工夫が必要である。

4　本年度のまとめ・次年度の取り組み

○地域や家庭及び小学校との連携を更に深めながら、「まなび力」「しぐさ力」「きずな力」の向上をめざす。

「まなび力」の視点から
　○基礎・基本の徹底　○「知力・体力・人間力」の向上　○生徒主体の活動を多く取り入れた「学びの質」の向上
「しぐさ力」の視点から
　○やるべきことをいつでもどこでも発揮できる「本物の力」の育成　○普段の生活の充実　○基本的生活習慣の徹底
「きずな力」の視点から
　○「多様な価値観や違い」を認め、「自他の尊重」を行動として実行できる生徒の育成